

教育施策の重点目標 5

新しい時代を担う人材育成や高度な研究を充実し、地域とともに歩む高等教育を推進します

(1) 教育の充実・強化

教育体制・内容の充実

[今後の方向と目標]

県立大学において、豊かな人間性ととも、幅広い教養や専門知識・技能を含めた課題探求能力と語学力・情報処理能力等の国際的なコミュニケーション能力を備えた、地域に貢献し、国際的に活躍できる人材の育成を行う。

特に、以下の事項を、取組に関することをはじめとした具体的な目標とする。

管理栄養士養成課程（食環境栄養課程）の設置（平成21年度）

緑環境景観マネジメント研究科の設置（平成21年度）

先端計算科学研究科（仮称）の新設（平成23年度）

数値プログラム100：県立大学大学院先端計算科学研究科（仮称）の開設

[施策の取組]

「グローバルコミュニケーション科目（英語・情報）」の充実や幅広い教養・豊かな人間性を養う多様な「教養科目」の開講など全学共通教育の充実を図る。

英語による専門教育の実施など国際化に対応できる人材育成プログラムを検討する。

大学教育の質を保証するため、授業方法についての研究会、新任教員のための研修会の開催や教育内容・方法の改善に組織的に取り組む全学的なFD²¹(Faculty Development)を推進する。

高度専門職業人や時代のニーズに対応した人材の育成を推進する。

- (1) 栄養指導や食育の推進など健康づくりを推進できる高度な人材を養成するため、環境人間学部に管理栄養士養成課程（食環境栄養課程）を設置する。
- (2) 県立淡路景観園芸学校における教育実績を生かし、緑環境景観の創出や保全・活用を実践する高度専門職業人を育成するため、専門職大学院として「緑環境景観マネジメント研究科」を設置する。
- (3) 神戸ポートアイランドでの次世代スーパーコンピュータの立地に伴い、シミュレーション科学の人材育成を行う先端計算科学研究科（仮称）を新設するとともに、多様な大学によるシミュレーション科学の共同研究を展開する国際的な大学連携拠点を形成する。

²¹ FD……ファカルティ・ディベロプメント。教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例として、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催など。

(4) 国際的に活躍できるビジネスリーダーや、中堅・中小企業での経営の実践能力を備えた人材、医療分野における経営能力を備えた人材を育成することを目的に、中小企業診断士登録養成課程を併設した経営専門職大学院の開設をめざす。

自然・環境科学研究所（コウノトリの郷公園、西はりま天文台公園等）の教育機能を充実するため、大学院生の受入の拡大によるフィールドワークの拡充を図るとともに、大学院機能の付与について検討を進める。

地域と連携した教育活動を全県的な規模で展開し、地域社会への理解を深め、地域の活性化に貢献する全県キャンパス構想を推進する。

助産師の役割を活用した安全で安心な出産を普及するため、出産ケアの開発や助産師のリカレント教育²²・実習を通じての専門能力の向上を図る仕組みとしてバースセンター構想を推進する。

[これまでの主な取組]

全学共通教育

すべての学部生(1年次)を対象に幅広い視野を養うとともに、豊かな人間性の涵養と課題探求能力の向上、国際的なコミュニケーション能力の養成を目的とする教育(英語、情報関連科目、教養科目、他専攻科目)を神戸学園都市キャンパスと姫路書写キャンパスの2カ所で行う。

特徴的な科目:「ひょうご学概論」「生活の中の法律」「マテリアル科学への招待」等

遠隔授業

県内に点在する各キャンパスの学生に統一的な学習環境を提供するため、全学共通科目を中心に兵庫情報ハイウェイ²³を活用した遠隔授業を実施し、学習効果の向上に取り組む。

専門教育

専門分野における高度な知識や技術の習得に必要な基礎知識(専門基礎科目・専門関連科目)や各学部における専門教育科目等を教授する教育カリキュラムを提供する。

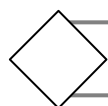
平成19年度:会計専門職大学院を開設

平成21年度:専門職大学院・緑環境景観マネジメント研究科、食環境栄養課程(環境人間学部)を開設

平成22年度:経営専門職大学院(MBA)を開設

²² リカレント教育……社会人が職業上の新たな知識・技術を習得するために、また日常生活において教養や人間性を高めるために必要とする高度で専門的な教育を提供するもの。

²³ 兵庫情報ハイウェイ……本県域の行政、教育、研究、医療など多様なサービスの提供や地域の情報格差の是正をめざして整備した基幹的な情報通信基盤となる通信ネットワーク。



学生の受入と支援の充実

[今後の方向と目標]

大学全入時代の到来や受験生の価値観の多様化に対応した多様な入試方法を導入し、県立大学の教育理念を十分に理解し、目的意識と意欲を持った学生の幅広い受け入れを推進する。

また、学生が安心して充実した大学生活を過ごすことができるように学習、生活両面でのニーズを把握し、効果的な授業の実現や生活環境の改善に取り組む。

特に、以下の事項を、取組に関することをはじめとした具体的な目標とする。

学生による授業評価アンケートの実施

[施策の取組]

一般選抜、AO（アドミッションオフィス）入試等入学者選抜制度の検証を行い、制度の充実・改善を図る。

就職情報の収集と学生への提供、学生の就職意識の啓発やキャリア形成への支援、関連する産業界への教育理念等の発信など、教職員が連携し、就職支援に積極的に取り組む。

学生に対して実施している授業評価アンケートの結果を活用し、授業内容や教育方法の組織的な改善につなげていく。

学生の授業や生活面のニーズに事務局と教員が密接に連携して対応し、学習へのアドバイスやカウンセリング等、充実した学生指導・支援を行う。

大学の国際化、教育研究活動の高度化に資するため、外国人留学生特別選抜入試を許可された者に係る入学料を県内入学者と同額に改定し、留学生の確保を促進する。

[これまでの主な取組]

アドミッションポリシー(入学者受入方針)の策定・公表

県立大学で学ぶことに対し、しっかりした目的意識と意欲を持った学生を受け入れるため、アドミッションポリシーを策定し、公表する。

AO入試の導入

受験生の能力や意欲を多面的に評価し、多様な個性を受け入れるため、通常の学力試験ではなく、面接、小論文等により入学者を選考するAO入試を、平成18年度より全学的に導入する。

入試専門員の配置

県立大学の入試広報(高等学校の訪問等)や入試制度の調査研究を行うため平成17年度より配置する。

授業評価アンケートの実施

平成16年度より、学生に授業評価アンケートを前期と後期に実施し、教員の授業の改善方針等に反映させるなど、学生の声をより良い授業にフィードバックする。

毎年度2回(前期1回、後期1回)実施

学生の生活環境の改善

学生の修学支援や生活支援に関する基礎資料として活用するため、学部・大学院のすべての学生に対して、生活環境や学習環境に係るアンケートを実施(平成17・19年度)し、学生の生活環境改善等、学生指導・支援を行う。

平成19年度～：明石キャンパス・神戸学園都市キャンパス間にスクールバスを運行。

学生に対するカウンセリング

学生の抱える心理的な問題に対して、精神面でのサポートを行うため、学生カウンセラーを設置する。